

14 松河戸の九の宮 (島の神社と神々)

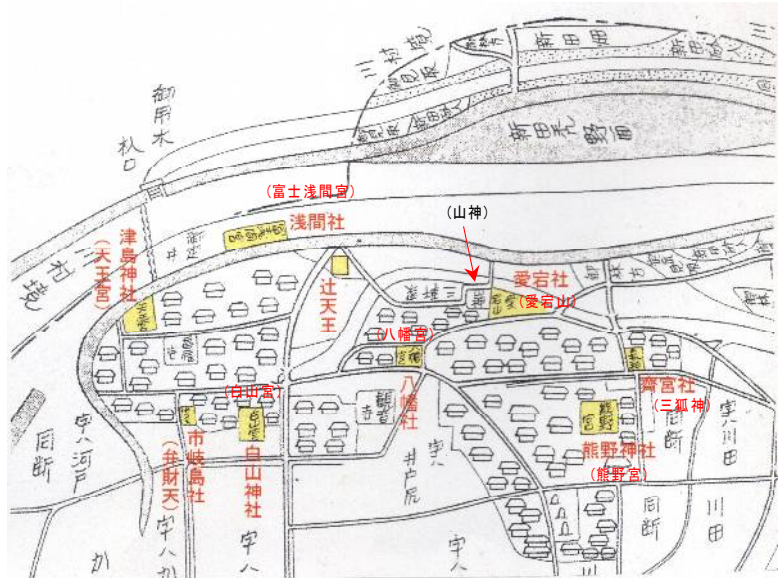
松河戸には、9社の神社があったので「松河戸の九の宮」といわれていました。

(平安時代から鎌倉時代初期にかけて逐次整った社格の「一の宮」「二の宮」…とは関係はありません)

各島の神社は、国の「一村一社合祀令」に基づき、大正元年(1912)9月25日に白山社に集合され、合祀又は境内社となって、白山社は白山神社(村社)となりました。

戦後、旧社地に小祠が建てられていましたが、区画整理後の現在はなくなりました。

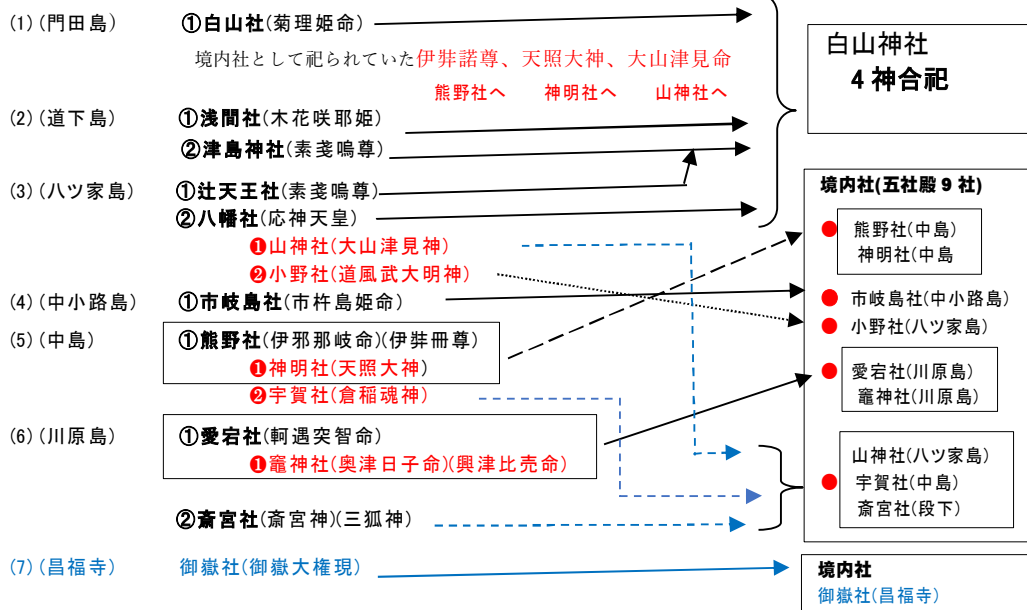
島の人々が大切に守ってきた各島の神社についてみてみます。



資料 松河戸誌研究会 松河戸村絵図天保12年(1840)から写し取ったもの

・天保12年(1840)松河戸絵図には、白山宮、弁才天、天王宮、富士浅間宮、八幡宮、山神、愛宕山、熊野宮、三狐神の9祠記載
・張州府志(寛文年間 1661-1672)・尾張御行記(文化年間 1804-1817)には、白山宮、富士浅間宮、八幡宮、熊野宮、愛宕山、齋宮社の6祠と天王権現2祠も掲載されている。

(黒字は島の神社(九の宮)、赤字は島の神社の境内社5社と白山社の3神)
大正元年の集合以前



※ 八ツ家島の辻天王社は、津島神社と同一神のため、津島神社へ合祀されてから白山神社に合祀された。
※ 白山社の境内社に祀られていた3神は、白山神社の境内社となった同一神の境内社に合祀された。
(伊弉諾尊は熊野社へ、天照大神は神明社へ、大山津見命は山神社へ合祀)

【1村1社会祀令について】

明治の終わり頃から行われた「1村1社会祀令」は、神社は宗教ではなく「国家の宗祀」であるという明治政府の国家原則に従って「近代社格制度」を制定し、県で管理し地方公共団体が財政を負担できるまでに神社の数を減らすことにありました。



白山神社境内社

地方の自治は神社を中心に行なわれるべきだという考えのもと、合祀政策に一町村一神社の基準が当てはめられることとなり、神社の氏子区域と行政区画を一致させることで、町村唯一の神社を地域活動の中心にさせようとするものでした。

松河戸においても、大正元年9月25日、松河戸の9社(境内社5社)を白山社に合祀(4社)と境内社(9社)とし、白山社を白山神社と称して村社としました。

集合された後の旧社地は、一旦国の管理下となりましたが、白山神社に返却されると畑地として開墾し、年貢を取って神社維持する費用にしていました。

終戦後、崇りがあるというので旧社地に小祠しょうしが建てられていましたが、松河戸の区画整理事業が平成4年から施行され始めると、旧社地の小祠も撤去されていきました。

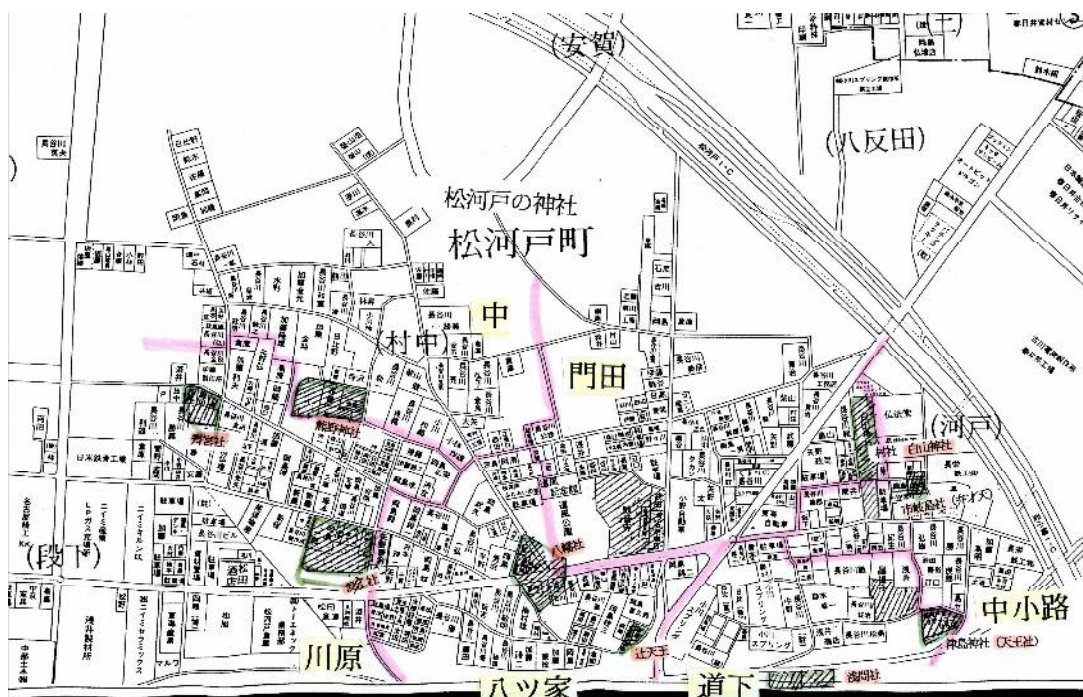
【御神体、棟札について】

・各神社の御神体箱は、昭和11年の旧本殿再建時に作成奉納され、松本美三宮司(現 河本清孝宮司の4代前)によって、神名・由緒書きが記入されました。

なお、「市岐島社」だけ、この箱型の御神体がなく、置物型の御神体です。

・御神体、棟札の確認については、最近では平成10年5月に確認されています。

九の宮の位置と区域 (地図は平成8年頃の住宅地図)



「松河戸白山神社の記録」から、岡島博氏 平成10年3月

(1) 門田島の神社

① 白山社(菊理姫命) 通称「うじがみさま」合祀前面積 1,295m²(戦後 1,651m²)
— 王子神社—白山宮—白山社—白山神社

門田島の「白山神社(白山社)」の創建は明らかではありませんが、明応3年(1494)3月6日造立の棟札がありました。

(現在、棟札は不明ですが戦前の神社の記録に棟札の文字が残されていたことから、再建は明応3年としていますが、尾張徇行記には慶長年中(1596-1614)建之と記載されています)

当初は「一王子神社」とっていたようですが、江戸初期に白山比咩神社の祭神の「菊理姫命」を祭神として迎えたころから、白山と名称を改められたようです。

白山社の祭神は「菊理姫命」でしたが、「1村1社合祀令」により、大正元年に各島の神社が集合された時に、八ツ家島の八幡社(応神天皇)、道下島の浅間社(木花咲耶姫)と津島社の(素戔鳴尊)が合祀されて「白山神社」となり、他の社(4社)は白山神社の境内社となりました。

(八ツ家島の辻天王社は、同一神のため、津島神社へ合祀されてから白山神社に合祀された)

白山比咩神社の祭神の「菊理姫命」を祭神として祀っていた白山社(白山神を水神に見立てていた)は、明治5年に村社に列せられ、明治40年に供進指定され、すでにその当時は村の中心の神社であったので、大正元年9月25日各島の神社を集合し松河戸村の村社とされました。

なお、大正元年の集合時に、熊野社と共に白山神社の境内社として祀られていたはずの中島の神明社(天照大神)の御神体の所在が不明でしたが、本殿内に祀られていたことが分かり、平成10年5月2日に本来の熊野社に移されました。

その時に本殿の中が確認されて、御神体箱の由緒書により、白山社に「伊弉諾尊」、「天照大神」、「大山津見神」の三神が境内社として祀られていたことが判明し、大正元年の集合時に、「伊弉諾尊」は境内社の熊野社へ、「天照大神」は境内社の神明社へ(熊野社と祠は同じ)また「大山津見命」は境内社の山神社へ合祀されていたことが分かりました。

その時、白山神社の御神像「菊理姫命の木造彩色立像」も確認されています。

白山宮時代からの古い石灯籠

「白山宮」石灯籠(高さ185cm)

延享2年(1745)6月建立の石灯籠で境内最古の石灯籠

・西正面「白山宮」、南面「延享二乙丑6月吉祥日」、北面「春日井郡松河戸」、東面「願主 氏名9名(不詳)」文字面風化し判読困難となっている。

「丹羽献燈」石灯籠(高さ185cm)

東正面「献燈 丹羽源七郎 施主」、西面「文化7庚午(1810)天建立」

・現在最古の棟札(1717)に願主 丹羽源七郎との記載がある。

・昭和初期(10年頃)の資料によると、社家 丹羽原右衛門との記載がある。(源七郎と原右衛門との関係は?)



「白山宮」石灯籠(高さ185cm)
延享2年(1745)建立

- ・社殿に向かって右側に建っている。
- ・白山神社に現存するもっとも古い石灯籠



真ん中が「丹羽献燈」石灯籠
(高さ185cm)文化7年(1810)建立、

- ・社殿に向かって左側に建つ。
- ・上の写真「白山宮」石灯籠と同型で左が「水神」、右が「白龍神」)

○ 「菊理姫命」(白山神社の祭神)

白山最高峰の御前峰(2,702m)にある白山比咩神社(奥宮)の祭神が「菊理姫命」ですが、なぜ「白山比咩大神」が「菊理姫」と同一神になったのかは、いろいろな説がありますが、正確な所は分からないそうです。

白山比咩神社(登拝の拠点)は、加賀馬場の中心として栄え、比叡山延暦寺の末寺として多くの衆徒を擁し全国に勢力をおよぼしました。

春日井市域の白山神社の祭神のうち、4社すべてに共通しているのは「菊理姫命」です。

菊理姫は謎の多い神様で、日本の歴史を記した日本書紀の神話の部分では一文のみ登場し、あとは謎に包まれた神様です。

菊理姫の御神徳は、日本書紀のイザナギとイザナミの争いの仲裁に入ったことから、結びの神(縁結び、夫婦円満)、白山の主祭神であることから農業神(五穀豊穰)などです。

○ 松河戸白山神社の御神像 菊理姫命の木造彩色立像

厨子の底には「寛政四年 鎮座 子四月朔日社僧 昌福現住禅應代 造立」とあり、社僧(別当寺)であった昌福寺住職禅応師の時に造立鎮座されたことがわかる。

御神像は背丈 20 センチほどの女神立像で、両手の掌を胸前で重ねた上に皿があり、その上にとぐろを巻き首を持ち上げた形の龍をいただく姿で、加賀白山大権現御神像によく似ている。

白山開山の泰澄大師が養老元年(717)に初めて白山に登り転法輪窟において 27 日間の祈念加持を勤めたところ、足下の翠ヶ池から巨大な龍が現れたという。龍の姿が消えると白衣綾羅の唐女のような女神が現れたので拜んでいると、十一面観世音菩薩のお姿になったと伝えられている。

当社の御神像は、この伝説に由来するものと考えられている。

松河戸誌研究会・白山神社総代 平成 10 年5月2日 神明社移転拝観

郷土史かすがい 村中治彦氏から

○ 三馬場と禅定道

泰澄の開山後(養老元年(717))、山岳信仰の高まりから修験の霊場として登拝する修行僧が増え、修行登山路=「禅定道」として発展していきます。

『白山記』(白山比咩神社所蔵)によれば、泰澄が白山を開山してからおよそ 115 年後の天長 9 年(832)には、加賀、越前、美濃に登拝の拠点となる「馬場」が開かれたと記されています。

馬場という呼び方には、白山へ登る際、馬でそこまで行き、馬をつなぎとめておいた場所、あるいは馬がそれ以上進めない神域への入口だからそう呼ばれたという説が残っています。

加賀馬場(石川県)の中心が現在の白山比咩神社、越前馬場(福井県)は現在の平泉寺白山神社、美濃馬場(岐阜県)が現在の長滝白山神社で、山伏のみならず白山の水の恵みを受けて生活する農民から霊峰に憧れる都人まで、多くの人が馬場から白山を目指しました。



○ 戦前の神社の記録に棟札の文字が残されていた

「奉造立一御前上肯明應参年甲寅三月六日敬白 大工 山田莊 上飯田 藤原長久九郎兵衛
檀那庵 実内道範 浄金徳兵衛 近本弥七」

「奉再興上茜月一之王子願主敬白 慶長拾壹年丙午九月十五日」

「奉再興一王子 尾州東春日井郡柏井郷松河戸村敬白 大工 藤原弥衛門 同茂左工門 社人丹
羽源右工門 時二元和第九亥子(1)卯月十五日 本願 生田藤十郎」

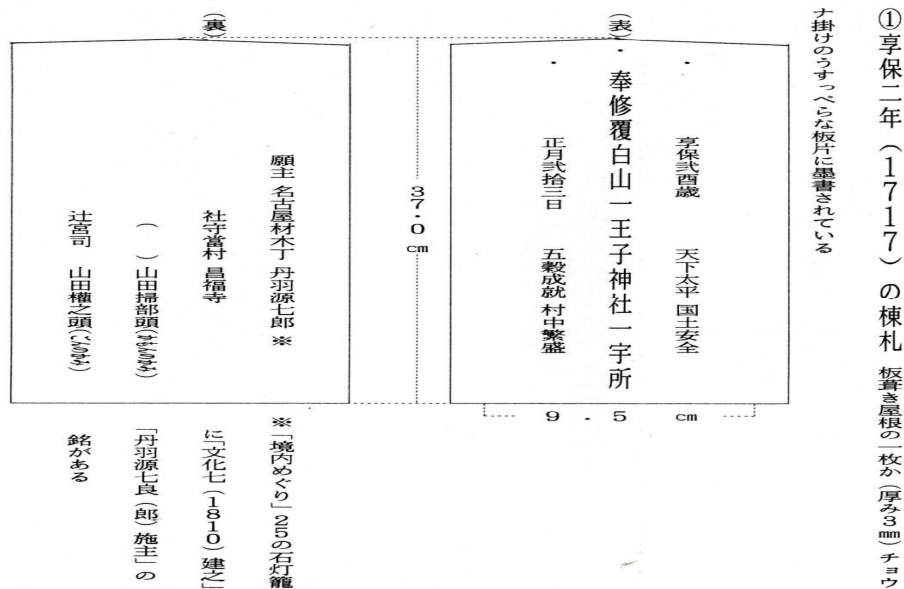
裏面 矢野多左衛門 加藤善太郎 各々 檀那

註 (1)癸亥の誤りか。(亥子とは陰暦 10 月の亥の日のことなので癸亥の誤りと思われる)

- ① 東春日井郡の文字は、棟札から転記する際に、記入者が誤って当時の郡名を書いたものと思われる。
- ② この記録から推測すると、明応、慶長、元和の古い棟札を新しく一枚の棟札の表と裏にまとめて書き直したものと考えられる。
- ③ 慶長と元和の棟札には、奉再興とあるが、明応の棟札には、奉造立とあるので白山社の創建を伝えるものと考えられる。
- ④ この記録には「宝物 古代陶器高麗狛一对」とある。この狛犬は昭和の中頃まで、本殿前の廊下に安置されていた。

郷土史かすがい 第 53 号白山信仰 村中治彦氏から

○ 白山神社に現存する最古の棟札



「松河戸白山神社の記録」から、「神明社」移転時拝観記録 岡島博氏 平成 10 年 5 月 2 日

(2) 道下島の神社

- ① 浅間社(木花咲耶姫)^{このはなさくやひめ} 白山神社に合祀 通称「おふじさま」面積不詳
富士浅間宮一浅間社

道下島の「浅間社」の祭神は「木花咲耶姫」で、創建は天正年中(1573-1592)とされています。(徇行記)

庄内川の堤防の河川敷(現在の王子製紙用取水施設)辺りにあり、大正元年集合時に同じ道下島の津島神社(天王社)とともに白山社に合祀されました。



明治19年
奉獻のぼり

- 「木花咲耶姫命」^{このはなさくやひめのみこと}(白山神社の祭神)

富士山の神霊(富士浅間神社の祭神)でもある「木花咲耶姫」は、日本神話に登場する絶世の美女で桜の花の名の語源ともいわれ、『竹取物語』の主人公として描かれる「かぐや姫」のモデルともなっています。

山の神の総元締である父の「大山津見神」^{おおやまつみのかみ}は、「イザナギ」と「イザナミ」の子なので、「木花咲耶姫」はその孫にあたり、山の神、水の神として祀られ、子授けや安産そして、農業や漁業などの守護神でもあります。

「天照大神」の孫の「瓊瓊杵尊(ニニギ尊)」と結婚し、火の中で無事に3人の御子を出産し、その三男は「山幸彦と呼ばれるホオリノミコト」で、「神武天皇(初代天皇)」の祖父として知られています。

- ② 津島神社^{すさのうのみこと}(素戔嗚尊) 白山神社に合祀 通称「おてんのう」合祀前面積 720m²

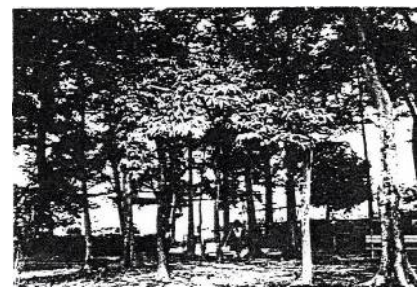
河戸 744-1(保安林)面積 168.3m²と、河戸 745-1(山林)面積 551.1 m²)

天王宮一天王社一津島社一津島神社

道下島の津島神社(天王社)の祭神は「素戔嗚尊」(疫病除けの神)で、津島市の津島神社から慶長11年(1606)勧請され創建されました。(徇行記)

大正元年集合時に、まず同一神である八ツ家島の「辻天王(素戔嗚尊)」を合祀してから、9月25日白山社(白山神社)に合祀されました。

戦後跡地(東児童公園西南角)に小祠(津島神社の御札を御神体)が祀られ、昭和50年に東ちびっこ広場(東児童公園)としていましたが、平成元年売却(山林面積 552 m²)して、平成2年の白山神社造営資金(1m²当たり5万7,500円(31,740,000円)で売却)に充当され、残っていた小祠は区画整理に伴い平成9年10月28日に白山神社に移されました。



天王社(津島神社)の小祠
平成9年10月28日に白山社に移された。

松河戸の祇園祭は他の村々より一段と盛んに行われていました。

白山神社の倉庫に保管されている馬道具の収納箱をみると、道下島の馬具収納箱には明治5年6月造之とあることから、道下島では天王社の祭礼時(祇園祭)に豪華な馬具を付けた飾り馬に標具^{めし}をのせて奉納馬とするオマント祭がすでに行われていたこととなります。

他の島でもオマント奉納が行われるようになり、少なくとも6島で競い合う派手なお祭りは、道下島にあった津島神社から「素戔鳴尊(牛頭天王)」が白山神社に合祀された大正元年以降とおもわれます。

○「素戔鳴尊(牛頭天王)」(白山神社の祭神)

白山神社の祇園祭は、津島神社の津島天王まつりが伝わってきたものといえます。

「天王」とは本名を「牛頭天王」といい、インドの「祇園精舎」の守護神と伝えられています。

- ・薬師如来の垂迹という「疫病から救う神」
- ・「海の神」
- ・「牛の角をもつ恐ろしい忿怒の鬼神」

この神が海を渡って日本に伝えられました。

6世紀、我が国に仏教が伝来すると仏教を受け入れるための融合思想として「神仏習合」が唱えられ、平安初期に「本地垂迹」として定着して、「牛頭天王」は「須佐之男命」として現れたと考えられました。

では、なぜ「牛頭天王」は「須佐之男命」と同一視されたのでしょうか。

古事記、日本書紀に「須佐之男命」は、イザナキ、イザナミから生まれた三貴神の一人で「海の神」、「荒々しいすさぶる神」であり、大蛇を退治した勇敢な姿が、仏法を守護し疫病を払う鬼神である牛頭天王と重ね合わされたと考えられています。

三貴子

天照大御神 一太陽神。

月読命 一夜を統べる月神。

須佐之男命 一海原の神。

(3) ハツ家島の神社

① (東組)の辻天王社(素戔嗚尊) 通称「おみよし」 面積不詳

辻天王社—津島神社

ハツ家島(東組)の「辻天王社」の祭神は「素戔嗚尊」で、創建は不詳ですが道下島の津島神社(天王社)勧請の慶長11年頃(1606)とされており、松川橋西手前辺りの辻にありました。

大正元年の集合時には、同一神である道下島の津島神社に合祀してから白山神社に合祀されました。

戦後、小祠が祀られていましたが、区画整理に伴い平成9年11月16日撤収されました。

(補償額40万7千円)

② 八幡社(応神天皇) 白山神社に合祀 通称「おはちまん」 合祀前面積2,300㎡

八幡宮—八幡社

ハツ家島の「八幡社」の祭神は「応神天皇」で、元亀年中(1570-1573)に島の鎮守の神として勧請されて小野道風公生誕地(屋敷跡)の中にありました。

(徇行記)

この場所は、通名を「城田」といい、中世頃に城があったといわれています。

大正元年集合時に白山社に合祀され、境内社の「小野社」、「山神社」は白山神社の境内社となりました。(八幡社の石柱碑はそのまま残されました)

この跡地は、小野道風の屋敷跡ともいわれていることから、戦後、地域住民の手で、公園造成、道風記念館建設などが行われてきました。

春日井市柏井町のかつての下街道沿いに八幡社がありますが、古くは下篠本郷に鎮座し、柏井の荘(下条村、上条村、松河戸村、中切)四つの土地を守護するために祀られた総鎮守でした。

(張州府誌等では、松河戸・中切・下条・上条・上条新田村等としている。)

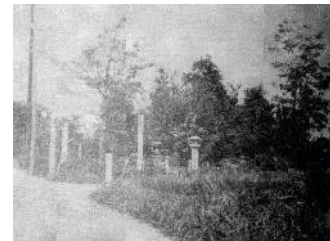
また、戦前は松河戸新田の熊野(鳥居松村大字松河戸字熊山3250番)であった現在の勝川駅の南(松新町4))の八幡社は、ハツ家島のこの八幡社から分祀したとされています。

○ 「応神天皇」(白山神社の祭神)

応神天皇は、「八幡さま」として広く親しまれる八幡神社の祭神で、実在したとすれば4世紀後半ごろの大王と推定され、弥生後期第15代に数えられる天皇になります。

八幡信仰は、大分県の宇佐八幡宮を総本社として、全国に4万余と最も多くの分社があるといわれており、清和源氏をはじめ全国の武士にとって武運の神様『弓矢八幡』として崇敬されてきました。

中世は各地で勧請が進み、全国の農村においては鎮守の神様(土地を守る神様)として親しまれてきました。



八幡社・道風公屋敷跡周辺
(写真は戦後昭和20年頃)
左側の道路は松河戸の本道
公園整備する前



『集古十種』より「応神帝御影」
菅田八幡宮 蔵

① 八幡社の境内社 **山神社(大山津見神)**

八ツ家島の八幡社の境内社として「山神社」があり、「大山津見神」を祀っていました。山の神である「大山津見神」と、その娘である「木花咲耶姫命」を祭神とした山神社は山岳信仰の神社で各地に鎮座しています。

農民の間では、春になると山の神が山から降りてきて田の神となり、秋には再び山に戻るといふ信仰があり、この松河戸では農業守護神で、金運、子宝の御神徳があるとされてきました。

松河戸絵図(天保12年)を見てみると、愛宕山(愛宕社)の東側に接して「山神」がありますが、同一神であるため山神社に合祀され、大正元年集合時に白山神社の境内社となりました。

その時、白山社の境内社として祀られていた山神社「大山津見神」も同一神であるため一緒に合祀されています。



② 八幡社の境内社 **小野社(道風武大明神)**

八ツ家島の八幡社の境内社として「小野社」がありました。

ここは、小野道風公の屋敷跡と伝承されており「道風武大明神」(箱型御神体)を祀っていました。

大正元年集合時に白山神社の境内社となりましたが、その跡地は小野道風誕生地として住民の顕彰活動が盛んに行われました。

戦後、跡地に小野社を復興(小野小学校の奉安殿を社殿)して「道風武大明神」(木造座像)を祀り、昭和29年には小野道風公誕生地が愛知県指定文化財史跡第1号に指定されています。

そして、住民総出の勤労奉仕や浄財をもとに、公園造成、道風記念館建設などを整備し、八幡社、道風屋敷跡には、昭和30年当時春日井唯一の公園として道風公園が完成しました。

平成22年11月3日、区画整理に伴い祭神(木像座像)は白山神社に移されました。

現在、小野道風公の屋敷跡と伝承されているこの小野社に御神体はなく、白山神社の境内社である小野社に、箱型御神体と木像御神体の2体の御神体が存在しています。

跡地では毎年11月3日に道風祭が行われています。

小野朝臣(道風)遺跡之碑

大正元年に八幡社、小野社は白山神社に集合され、小野道風の屋敷跡として、小野朝臣(道風)遺跡之碑だけが残った。

(写真は、小野小学校の奉安殿の社殿が来る前 昭和20年頃)



旧道風公園

住民総出の勤労奉仕や浄財をもとに、公園造成、道風記念館建設などを行った。(写真は昭和30年)



旧小野社 写真は昭和50年頃
平成22年11月3日に御神体は白山社に移された。

(4) 中小路島の神社

① ^{いちきしましや いちきしま ひめ べんざいてん} 市岐島社(市杵島姫命)(弁才天) 通称「べんてんさま」 集合前面積 99m²
 弁財天一市岐島社

創建は不明ですが、白山社のすぐ隣(東に約 50m)の所に「市岐島社」があり「市杵島姫命」を祀ってきました。

「市杵島姫命」は、広島県廿日市市の巖島(宮島)にある^{いつくしまじんじや}巖島神社の祭神です。



宗像三女神

巖島神社の宗像三女神「^{いちきしまひめ}市杵島姫命」、
 「^{たごりひめ}田心姫命」、「^{たぎつひめ}湍津姫命」として知られるきれいな女神を祭神としており、その一人「市杵島姫神」は「弁財天」と同一視され、金運・財運の神とされています。

「弁財天」は鎌倉時代になると「^{うがじん}宇賀神」と習合してさらに広く信仰されることとなります。

更に「宇賀神」は伏見稻荷大社の主祭神「^{うかのみたま}宇迦之御魂神」と同一視されています。

また、「宇迦之御魂神」の別名を^{きくじ}三狐神ともいいます。

よって、中小路島の市岐島社(市杵島姫神)、中島の宇賀社(倉稻魂命)、河原島の齋宮社(三狐神)は、同じ神でつながっていることとなります。



「弁財天」石柱碑
 鳥居入り右側にポツと1つだけある。

市岐島社 箱型の御神体でなく 特殊な形の置物風の御神体
 頭部 直径6・5cm 高さ8・8cmのリングの形 中がえぐられ縄状のものが巻いている 緑色塗装
 胴部 底が10cmの円盤状の台座で金色塗装 その上に三つの木片がひもでしばって台座に差し込んである 三片の両側の2片には緑色塗装

大正元年に白山神社の境内社として祀られ、明治3年建立された「弁財天」の石柱碑は白山神社の鳥居を入り右側に移されています。

なぜ、他の島の神社の石柱碑と同じに五社に移されなかったのか疑問です。

戦後跡地は白山神社の境内地となり畑になっていました。

白山神社境内社の市岐島社御神体
 平成10年5月拝観時に記録
 岡島博氏

祭神、神社の繋がり

総本宮・中心神社	広島県 巖島神社			京都市 伏見稻荷大社	
祭神	市杵島姫神 宗像三女神	弁財天 「七福神」の1柱 同一視	宇賀神 福の神の総称 習合	(御食津神) 宇迦之御魂神 倉稻魂命 別称	三狐神
	商売繁盛 金運 五穀豊穡	福德 財宝授	財をもたらず福 神	保食の神 五穀豊穡	田畑の守り神
島の神社	中小路島の市岐島社			中島の宇賀社	河原島の齋宮社

(5) 中島の神社

① 熊野社(伊弉册尊)(伊邪那岐命) 通称「おくまの」
 集合前面積 2,019m² 熊野宮—熊野社—熊野神社

中島の「熊野社」の創建は慶長年中(1596-1615)、祭神は「伊弉册尊」で、熊野三山(熊野本宮大社<本宮>、熊野速玉大社<新宮>、熊野那智大社<那智>)の祭神である「熊野権現」の勧請を受けました。



大正元年集合時、熊野社は境内社であった「神明社」、「宇賀社」とともに、白山神社の境内社となり、「熊野社」は「神明社」と同じ祠に祀られました。

また、同一神である白山社の境内社祭神であった「伊邪那岐命」を合祀しています。



熊野社小祠 移転 平成 12 年 3 月 19 日

跡地は官有地となりましたが大正 10 年白山神社に譲与されています。

戦後跡地の半分は各個人に移転(昭和 27 年)され、跡地に小祠(熊野速玉大神の御札)が祀られ、昭和 43 年に「熊野社」の石柱碑も立てられました。

昭和 48 年に児童遊園地としていましたが、平成元年売却(畑面積 796 m²)して平成 2 年の白山神社造営資金(1m²当たり5万 7,500 円(45,770,000 円)で売却)に充当され、残っていた小祠は区画整理に伴い平成 12 年 3 月 19 日に白山社に移されました。

① 熊野社の境内社神明社(天照大神)

中島の熊野社の境内社「天照大神」として古くからの記録があり、張州府志、尾張徇行記には「熊野社内二伊勢熱田祠アリ」と掲載されており、慶長年中(1596-1615)に創建されました。(徇行記)

「神明社」とは、天照大神又は伊勢両宮を祀る社の総称で、島では伊勢講の日常参拝の対象として迎えました。

大正元年集合時に熊野社と共に白山神社の境内社として祀られていたはずの御神体の所在が一時不明でしたが、本殿内に祀られていたことが分かり、平成 10 年 5 月 2 日に本来の熊野社と同じ祠に移されました。

伊弉册尊	伊邪那岐命
熊野社 御神体 8.0×7.5×20.0 cm の木製の密閉された箱	
祭神 伊邪那岐命ハ當境内社祭神ニシテ 伊弉册尊ハ元無格社熊野神社祭神 ナリシガ大正元年九月十二日允許ヲ得テ合祀 大正元年九月二十五日合祀シ奉ル	

中に小石のような音
 (御帯在中)
 正面に祭神名
 向かって左に解説

白山神社境内社の熊野社の御神体箱書
 平成 10 年 5 月 拝観時に記録 岡島博氏 拝観記入

社名 勳七等 松本善二	天照大神	當境内社祭神ト元無格社熊野神社ノ境内社神明社ト同一祭神ナルヲ以テ大正元年九月十二日 允許ヲ得テ當境内社祭神ニ合祀大正元年九月二十五日合祀シ奉ル
-------------	------	---

神明社の御神体箱書
 一時不明であった神明社の御神体箱書
 岡島博氏 拝観記入

② 熊野社の境内社 **宇賀社(倉稲魂神)**、**宇迦之御魂神**、

中島の熊野社の境内社として「宇賀社」があり「倉稲魂神」を祀っていましたが、大正元年集合時に白山神社の境内社となりました。

「ウカノミタマ」即ち保食の神、豊作を祈る女神であり、松河戸は「雲霞祭」が盛んに行われ、その際「宇賀神」の幟も田のあぜ道を行進しました。

「雲霞祭」は、うんか、ニカメチユなどの虫害を防ぐことを祈って行われ、毎年旧暦の6月中旬、土用の5日後に行われ、平成8年度まで行われていましたが、区画整理が進むにつれ水田が少なくなったことから廃止されました。

「宇賀神」は、日本で中世以降信仰された神であり、財をもたらす福神として信仰され、伊勢には「式内宇賀社」があります。

『日本書紀』では「倉稲魂、此れを宇介能美施磨と云」と記されており、『古事記』では「宇迦之御魂神」、『日本書紀』では「倉稲魂命」と表記しています。

「倉稲魂命」は、伏見稲荷大社の主祭神「宇迦之御魂神」でもあり、「稲荷神」(お稲荷さん)として広く信仰されています。

「弁財天」は鎌倉時代になると「宇賀神」と習合されることとなります。

巖島神社の祭神 「七福神」の一柱

市杵島姫神 = 弁財天



同一視



鎌倉時代に習合

宇賀社の神 宇賀神



写真は昌福寺の稲荷堂に祀られている宇賀神

市杵島姫神は、日本神話に登場する女神で、宗像三女神の一柱で、水の神である。

『古事記』では市寸島比売命、『日本書紀』では市杵嶋姫命と表記する。

弁財天は、仏教の守護神である天部の一つで、本地垂迹では日本神話に登場する宗像三女神の一柱である市杵嶋姫命と同一視されている。

「七福神」の一員として宝船に乗り、縁起物にもなっている。

伏見稲荷大社の主祭神 宇迦之御魂神 = 倉稲魂命

同一視



日本書紀に同一の神と表記されている。

別称— 稲荷大明神、三狐神、御食津神など

写真は滋賀県守山市・小津神社所蔵)、平安時代の作

稲荷=狐を連想する人が多いのですが、これは食物の神「御食津神」を「みけつかみ」→「三狐神」と表記したことに由来するといわれています。

宇賀神の御神体は、仏説により白蛇を祀ったもので、弁財天の宝冠中にある白蛇を宇賀神とすることが広まっています。

※「御食津神」は食物をつかさどる神のことで、大宜都比売神・保食神・宇迦之御魂・豊受大神・若宇迦乃売神など。

(6) 川原島の神社

① 愛宕社(軻遇突智命) 通称「おあたご」「おはたご」 集合前面積 3,979m² 愛宕山—愛宕社

「愛宕社」の祭神は「軻遇突智命」で、京都府京都市右京区にある愛宕神社の祭神です。愛宕神社の旧称は「阿多古神社」といい、火伏せ・防火に靈験のある神社として知られ、「火迺要慎」と書かれた愛宕神社の火伏札は京都の多くの家庭の台所や飲食店の厨房などに貼られています。水害に苦しむ当地松河戸では「水の守り神」でもあります。

愛宕社の創建は不明ですが、寛永 12 年(1636)に九左衛門という村人が京都の愛宕神社から分霊したともいわれています。(徇行記では慶長年中建之(1596~1615)とされている)

旧社としては最大の面積があり(1,206 坪)常緑樹が茂る森になっていました。

大正元年集合時に、愛宕社は境内社の「竈神社」と共に白山神社の境内社として祀られていましたが、愛宕神(明治 3 年建立)の標柱は齋宮社跡地に移されました。

平成 12 年 3 月区画整理に伴い齋宮社の小祠が白山社に移された時に、この愛宕神の標柱も一緒に移されています。

戦後、各島の旧社地は戻され小祠が建てられていましたが、愛宕社の跡地は昭和 25 年 3 月、畑、宅地として各個人へ移転されたことにより神社の所有地はなくなりました。

② 愛宕社の境内社 竈神社(奥津日子命)(興津比売命)

川原島の愛宕社の境内社として「竈神社」があり、「奥津日子命」、「興津比売命」の二神である「竈神」を祀っていました。

火所を守護する神聖な神として、この二神に火の神(軻遇突智命)を加えて、仏神である「三宝荒神」におき替えられています。

「カマジン」→コージン(荒神) かまどの神 煮焚の神 ひいては屋敷神であって各家の土間のかまどの傍らの柱に花筒を供えて祀っていました。

子供のころ、悪いことをすると「コージンサマのバチが当たる」とたしなめられました。

大正元年集合時に、愛宕社と共に白山神社の境内社として祀られました。

③ 齋宮社(齋宮神)(三狐神) 通称「おしゃぐじ」 集合前面積 1,238m² 齋宮社

段下(川原島)に「齋宮社」があり、慶長年中(1596-1615)に創建されました。
(徇行記)

ところが、松河戸絵図天保 12 年(1840)には「三狐神」(みけつのかみ)と書いてあります。

「おしゃぐじさま」と呼ばれ、川原島の人々に親しまれていた小さな社(齋宮社)の語源は、社宮司神(しゃぐうじしん)、石神(しゃくじん)、あるいは三狐



三狐神

神（さんこじん）の訛った発音から来ていると考えられます。

「齋宮社」は、いつからこの神社名になったか、どこの元宮から勧請されたかが不明で、伊勢の齋宮との関連は定かではありません。

明治 31 年 6 月に社殿が新調されましたが、大正元年集合時に「齋宮社」は白山神社の境内社として祀られ、明治 3 年建立された三狐神の石柱も白山神社に移されました。

土地は官有地となりますが、大正 10 年に白山神社へ譲与されています。

「三狐神」の 1 本の石柱も御神体とおもわれしており、狐の霊を祀り「稻荷神社」、「宇賀社」と同じく豊作の神と水難除けの神です。

戦後跡地は各個人に移転(昭和 27 年)されましたが、一部に小祠(齋宮神 木製の御札)が祀られ、昭和 42 年「齋宮社」の石柱碑が建立されました。

また、昭和 53 年一部売却(畑面積 36 m²)して社殿修理(1坪当たり 13 万円(143 万円)で売却)に充当されました。

平成 12 年 3 月 13 日区画整理に伴い遷座お祓いがされて白山社に移されました。

その時、「齋宮社」の標柱と「愛宕神」の標柱も白山神社に移されました。

大正元年にすでに移されていた三狐神の石柱の向かって右側へ並べられ、かつて川原島にあった神社の石柱が 3 つ仲良く並んでいます。

三狐神(みけつのかみ)(さぐじ)(さんこしん)

…… 農家で祭る田畑の守り神

写真 向かって左から

●「三狐神」 ●「齋宮社」 ●「愛宕社」

川原島の 3 社の石柱碑が並んでいる。



遷座前の齋宮社の森 平成 10 年 1 月



齋宮社小祠遷座お祓い
平成 12 年 3 月 13 日



お祓い神事の参列者
平成 12 年 3 月 13 日



※ 齋宮社の詳細な調査書「川原島 齋宮社覚書 平成 12 年 4 月」が保管されている。作成 岡島博氏

(7) 昌福寺の御嶽社(御嶽大権現)

山岳信仰からくる御嶽講によって、「御嶽大権現」を祀っていました。

御嶽社は昌福寺にありましたが、大正元年の「1村1社合祀令」により、白山神社の境内社となり、島の境内社(5社殿)とは別に、不浄除(目隠し門)の右側に設置されています。

石造物を御嶽山を模して小山を築き、「御嶽大権現」の石像、御嶽光達、大峰山先達などの石碑が建てられています。



白山神社境内
「御嶽大権現」や「行者増」、「御嶽先達」「大峰先達」の石碑

【参考】

御嶽社 (山岳信仰 御嶽講)

この地域では江戸末期から御嶽講が結成され、明治以降隆盛となり、地域にいろんな分派が生じたが、松河戸では松河戸誕生講が行われていた。

4月29日の大講(4月から5月の吉日)には観音寺で御岳経ご祈禱やはっけ見が行われ、講員はお参りをした後会食をする。

また、夏(頂上奥宮)と冬(麓の里宮)には御岳登拝に参加し、ついでに大峯山も参拝した。

この先達となる人たちは、毎月宿を定め、覚明霊神の軸をかけ御岳経をあげる。

食事はなく茶菓子程度で冬の夜寒行の托鉢などをした。この様な行事も昭和50年代には衰退した。

誕生講は、牛山新田で農業を営んでいた丹羽多治右衛門が結成した。

彼は御嶽を開山した覚明を尊敬し18歳のころから毎年3度は御嶽山へ登り、先達となって近村の人々に御嶽信仰を勧めて登拝を続けていたが、次第に同志が増えたので、天保3年(1832)に牛山で結社した。

誕生講の多い地域は東春日井郡と名古屋市の一部を含め50ヶ村以上であった。

市内には、関田と下市場地区、松河戸(守山区川村と合同)、前並(小牧の誕生講稲荷教会に所属)の3派があった。

御嶽社は昌福寺にあったが、大正元年の「1村1社合祀令」により、白山神社の境内社となった。

石造物を御嶽山を模して小山を築き、「御嶽大権現」の石像、御嶽光達、大峰山先達などの石碑が建てられている。

郷土誌かすがい 御岳登拝の道から

○大峰山代参

奈良県吉野の大峰山にある大峰山寺に参拝する古来からの土着の山岳宗教をいう。

役行者(えんのぎょうじゃ)が開いた山のうち最初に開山され、修験道発祥の「霊峰」として崇められてきて、今なお女人禁制が続いている。

標高は1719mで、山頂には蔵王権現を祀る大峰山寺があり、「山の正倉院」とも呼ばれている。

次回、神社シリーズNo.15では「まつり奉納」をお送りします。

- ・神社シリーズNo.1「春日井市内にある白山神社」、～No.14「松河戸の九の宮」については、下記ホームページに記載してあります。

ドメイン名「com」については現在不通になっています。「org」で閲覧ください。

松河戸文化科学探求隊
隊長 長谷川浩
080-3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
<http://matsukawado.org/>

(8) 信仰分類別(表) 全国で神社数の多い順

赤字は主な神社から勧請され松河戸の島にあった神社(境内社含む)、現在は白山神社に集合されている。

信仰種類	主な性格・	神徳	主な神社	総本宮・ 中心神社	祭神	説明
八幡信仰	武家や農村の守護神	厄除開運 武運長久	八幡神社、 若宮神社など	大分県 宇佐神宮 神奈川県 鶴岡八幡宮	応神天皇、 比売大神、 神功皇后	荘園制により著名寺院の領が広がり、鎮守神として全国に勧請されていった。源氏の氏神。全国的に分布
伊勢信仰	国家鎮護の最高神、皇室の租神	国家安泰	神明社、 齋宮社(三狐神) 皇大神社、 伊勢神宮など	三重県 伊勢神宮	天照大神、 豊受大御神	広めるために参詣者の案内などをする御師が置かれ、民衆に普及。江戸時代「おかげ参り」が盛んになった。東日本に多い
天神信仰	雷雨の神、学問や和歌などの神様	学業成就	天満神社、 北野神社、 天神社など	福岡県 太宰府天満宮 京都 北野天満宮	菅原道真	悲運のうちに没した道真公を慰霊。九州・沖縄に多い
稲荷信仰	保食の神 穀物の神、 諸産業の神	五穀豊穡 商売繁盛	稲荷神社、 宇賀神社、 三狐神(齋宮社) 稲荷社など	京都 伏見稲荷大社	宇迦之御魂神 (倉稲魂神)	神の使い(神使)の狐でなじみ深い。元は渡来人の秦氏の私祠とされる。東寺の鎮守となったことや農村の民俗信仰と結び付き、広がった。東日本に多い
熊野信仰	農林水産の神、良縁	母なる大地の神 五穀豊穡・家内安全	熊野神社、 王子神社、 十二所神社、 若一王子神社など	和歌山県 ・熊野本宮大社 ・熊野速玉大社 ・熊野那智大社	伊弉册命、 事解男命 速玉男命 (熊野三神)	神道、仏教、民間信仰、修験道などを習合した信仰。参詣者の案内をする御師らが活躍し普及。北海道、東北に多い
諏訪信仰	狩猟神、軍神、風神・水神	五穀豊穡 無病息災 学業成就	諏訪大社、 諏訪社、 南方神社など	長野県 諏訪大社	建御名方神、 八坂刀売神	現在でも御狩神事が行われている。武士層にも信仰があつかった。北陸、中部に多い
祇園信仰	疫病除けの神	疫病、厄難 災除け	八坂神社、 須賀神社、 津島神社、など	京都 八坂神社、 愛知県 津島神社	牛頭天王 素戔嗚尊	祭神は須佐之男命と同体とされる。祇園祭は、厄災を起こす御霊を鎮める儀礼「御霊会」が起源。関東に多い
白山信仰	水の神、農耕の神、縁結び	五穀豊穡・ 恋愛成就・ 生業繁栄	白山神社、 白山比咩神社 など	石川県 白山比咩神社	菊理媛神	白山を対象とする山岳信仰 北陸、中部に多い
春日信仰	雷神・竜神、 藤原氏の氏神	病傷快癒 厄除け	春日神社	奈良市 春日大社	建御雷神、経津主神、天児屋命、比売神	藤原氏の氏寺・興福寺とのかかわりも深く、広大な所領を背景に信仰が広まった。
愛宕信仰	火防の神	火伏せ 防火 (松河戸では水の守り神)	愛宕神社 竜神社	京都市 愛宕神社	軻遇突智命 奥津日子命、 興津比売命	火防の神に対する神道の信仰である。日本全国で「愛宕」を社名につける神社は43都道府県に約1000社ある。特に東北地方に多く分布する。
富士山 山神信仰	山の神 水の神	農業守護	浅間社 山神社	富士 浅間神社	大山津見神 木花咲耶姫	武家にあつく信仰された一方、農耕に関する神事も行われ、農耕神の一面もある。
鹿島信仰	武神、水の神	平和 外交 勝運	加島神社	茨城県 鹿島神宮	建御雷神	建御雷神(たけみかづち)は天孫降臨に先立ち国土を平定した神。武運を祈る武将らの崇敬を集めた。
金比羅信仰	海上安全、雨祈願	平和 病氣平癒	金刀比羅神社	香川県 金刀比羅宮	大物主神	インドのガンジス川のワニを神格化した仏教の神に起源をもつ。
厳島信仰	水神、勝運の神、開運招福、芸能の神	海上交通・商売繁盛 五穀豊穡	市岐島社 厳島神社	広島県 厳島神社	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命 (宗像三女神)	島そのものが神として信仰され、厳島中央の弥山(標高535m)が山岳信仰の対象であった。平清盛により海上に立つ大規模な社殿が整えられた
その他	書道の神	書道成就 勤勉の向上	小野神社 道風神社 小野社	京都市 道風神社	道風武大明神 (小野道風)	小野氏の本拠地滋賀県志賀小野郷に道風神社が、道風終焉の地京都市北区杉坂道風町に道風神社がある。